

地域交流センターの新築に寄せて

センター所長 吉岡 秀夫

嘉川地区においては、『地域の城』の建設年となります。

現在の建物は昭和54年にオープンしたものと、昭和43年建設の旧館(講堂)部分でありましたが、公民館時代には婦人会を始めとする社会教育関係の諸団体等に活発な活動をしていただきました。

また嘉川の文化の祭典である文化祭にも毎年盛大にご利用いただきました。しかし、時代の経過につれ、広い用地も車社会のあおりを受けて狭くなり、また、高齢者には二階の建物利用が不便ことや、部屋数が少ないこともあって、地域の方々からも施設改築の拡張要望が起こり、嘉川建設振興会や嘉川自治連合会が平成11年から18年にかけて、市当局に対し再三の要望書を提出することとなりました。

その間、消防機庫の移転新築、図書室ギャラリーの開館や民家を利用して『子ども館』の新設など市当局の協力のもと課題を解決してこられました。抜本的な解決には至りませんでした。平成20年になって、急遽、山口市の



さようなら、なつかしい旧館

嘉川地域交流センターの整備が打ち出され、直ちに用地買収が行われ、いよいよ新しい交流センター新築の計画が実動することとなりました。と同時に名称も公民館から地域交流センターと変わり、さらに交付金を伴った地域づくり活動が展開されることとなり、新築の舎屋が『地域の城』となってその役割を担うこととなります。

この機会に、地域が一丸となられて時代に即応する活動の仕方、内容の充実を計っていただきたいものと考えます。活用するに当たっては、利便性を高める建物の内部構成を必要とします。通常の行政の窓口や社会教育活動、

地域活動のスペース、災害時の避難場所や子どもの活動の場として活用できる多目的スペースも必要となります。もとより来場者の駐車場の確保とエレベーターの設置は活動拠点としては欠かせません。

建物の中身については、建設検討委員会が十分に協議検討されました。以後は、プレハブ建設工事(仮舎屋)、現施設の解体、新施設の建設工事と進められることとなっております。

一年間にわたって地区の皆様の活動にご不便をきたしますが、ご理解の上、可能な限りの地域活動を展開していただきますようお願いいたします。

平成24年度に笑顔で活動できるための新交流センターの完成を期待して、ご報告といたします。

交流センター改築スケジュール

【平成23年度】

- 仮設舎屋への引っ越し.....4/16~4/17
- 現庁舎解体.....5/1~6/30
- 新庁舎建設.....7/1~3/31
- 開館準備(新庁舎への引っ越し).....3/1~3/31

【平成24年度】

- 新庁舎開館(落成式).....4/1

「あいさつ」で明るい社会を

社会部会 西山 京子



表彰式風景

明るい挨拶が家庭や地域でお互いに自然に交わされることを願って、この度「あいさつ運動」の標語を募集しましたところ286編のご応募をいただきました。選

考の結果、最優秀賞5名、優秀賞9名を決定し、嘉川文化祭で表彰しました。また最優秀作品でステッカーを作成し、地区内の各小・中学校・交流センター・自治会・なごみの家・銀行・郵便局・農協にご協力をいただき、掲示しました。

最優秀作品

- 興進小学校6年 西崎 愛菜様
- 「あいさつは いつも笑顔で 元氣よく」
- 興進小学校3年 中野 恵吾様
- 「いいきぶん えがおとえがおの こんにちは」
- 嘉川小学校4年 金子 真大様
- 「おはようと いつも元氣な 嘉川っ子」
- 川西中学校3年 金子 千里様
- 「あいさつは 言っても言われても いい気持ち」
- 江崎地区 山本 京子様
- 「あいさつは やさしい笑顔 かわし合い」

いのちの学習・赤ちゃんふれあい体験

川西ちびっ子大集合

嘉川子育て支援連絡組織「みらい」

中学生と赤ちゃんとのふれあいを通して命の大切さを知ってもらいたいと始めた活動も9回となりました。佐山地区と合同で毎回約30組の親子の参加があります。中学生も各クラス毎に保健師さんから事前授業を受け、手作りおもちゃをプレゼントして一緒に遊びます。中学生からのお礼のはがきには、子育てには大変なことや喜びがたくさんあること、自分を大切に育ててくれた両親への感謝など多くの感想が書いてあります。お母さんからも心のもつた返信が中学生に届きます。命の大切さと心のふれあいが体験できるこの活動が、ずっと続いていくことを願っています。



川西ちびっ子大集合

ふるさと嘉川の酒

「嘉穂の郷」誕生

まちづくり委員会 松崎 志郎



嘉穂の郷

嘉川で自慢できるものは、広大な水田があり、県内屈指の酒蔵がある。そしてふるさとを愛する人がいることです。こんなふるさとを嘉川の自慢を活かした「ふるさと酒をつくらう」を昨年4月にスタートしました。

6月に田植え、7月にネーミングの募集、8月に「嘉穂の郷」と命名、9月に稲刈り、ラベルの決定、11月から金光酒造で仕込みを開始し、この度新酒発表会を迎えることができました。この間委員以外にも地域の皆様の温かいご支援・ご協力を受け、誕生することができましたことは感謝に堪えません。

これから、地域の皆様が「嘉穂の郷」を酌み交わしていただき、益々嘉川が元氣になることを願っています。

最後に、フルーティーで奥深く、心地よい余韻を吟味していただければ幸いです。

嘉川の遺跡と史跡調べ
「いよいよ子ども達の出番」

社会部会 田中 博

平成22年度史跡事業は、市の交付金を受けて立ち上げることができました。場所の選定や標柱建植位置の決定には関係自治会長のご協力と地権者のご理解をいただき、45本の標柱を準備しました。

いよいよ2月末より各地域の子ども会・保護者や地区民が一体となって標柱を建てていただいています。特に次世代を担う子ども達にとつて、この標柱建て作業を通じて先人の遺徳を学びながら思い出深い作業となることを期待しております。

嘉川の史跡は、住民の高齢化や開発工事ですれ去られたり、破壊されたりしています。

今だからできる。まだ間に合う。そんな焦りを感じ23年度は更に発展した活動になるよう準備中です。ご助言をお待ちしています。



「里道改修碑」標柱を建てる東本郷のみなさん

第7回嘉川地区
人権学習推進大会

人権学習推進協議会 松崎 恒雄

大会テーマを「あたたかい心を育てる家庭と地域づくり」として140名もの出席者の中で12月5日(日)に開催しました。

コール川西さんによる美しい合唱で始まり、嘉川読書クラブさんによる影絵、嘉川小学校、興進小学校、川西中学校の児童生徒さんによる作文発表、小学校6年生全員による人権標語を掲示発表しました。

講演は「一人ひとりみんなが主役」という演題で、山口県青少年育成県民会議副会長の重田強子先生にお願いしました。

最後は川西中学校有志合唱団の皆さんによる、迫力ある合唱で盛會のうちで大会を終了することができました。



川西中学校有志合唱団のコーラス(上)

作文発表の児童・生徒(右)



なごみの家
十周年行事を終えて

嘉川読書クラブ代表 坊河内 公子

夜半の落雷雨に、どうなることかと気をもんだ朝でしたが、風は少々強いものの、お天気もよく順調なすべり出しで、終始和やかな一日でした。

出し物の一つ紙芝居は、対象が子ども主体であるだけに、大人の入りを危ぶみましたが、台本選びが功を奏したのか、また年配の方の郷愁もあつてか、盛況で興味深く聞いてもらえたように思います。年齢を問わない読み聞かせの持つ力を改めて感じました。

フィナーレの「白河踊り」も、自治会それぞれ多少振りが違つてはいるものの、大筋は共通していて、単調な曲だけに乗りがよく楽しげでした。鎮魂と世代交流の益唄として「嘉川音頭」とともに拡がって欲しいと願っています。

嘉川自治連合会の備品の貸出について

このたび嘉川自治連合会では、嘉川地区民の健康増進とコミュニケーション活性化を図るため、下記のニュースポーツの備品を購入しました。地域の皆さんのために役立てていただきたいと考えています。

地域のイベントなどに活用を希望される方は、自治連合会事務局までお問い合わせ下さい。

電話：989-2018

記

★カラーリングセット

★ダーツセット

禅定寺山登山

嘉川地域づくり協議会長 佐光 邦靖

「山は呼んでるー、禅定寺山よー！」嘉川の歌の冒頭である。

昨年8月28日、一行18名で登山した。登山道整備検討の一行である。あいにく例年にならない異常気象の夏の終わりで、暑い暑い日だった。

それでも7時40分集合、8時登山開始に集合した一行は意気揚々と出発した。

平成22年度の地域づくりの一環として、『禅定寺山道の整備』を掲げたところ、有志のご賛同を得て、急速登山道の下見をすることとなった。登山口地元の井上・勝屋さんを先達として山に分け入る程に、登山道はすっかり荒れていた。おまけに一昨年豪雨もあって、がれきや木くずが多く、加えて倒木も随所にあつて、急勾配の道を探しながらの登山で大変難渋した。先頭が鉈鎌や鋏で切り開きながら一列となつて途切れることなく進み、「どれくらい登ったのかのおー！頑張ろー！」と励まし合いながら奥深くへ。

ご奉仕・ご協力に感謝

清掃の日実行委員会

今年度の「嘉川清掃の日」には、3000人近い方々にご参加いただきました。地域ボランティア「きすな」の生徒さんを始め、子どもさんから高齢者の方々までたくさん早い時間から集合場所においていただきました。特に、中学生や、お父さん

峯までもうしばらくかなという地点に至ったとき、直径10mもあろうかと思われる大岩、さらには段々畑でもあったのかという石垣による古屋敷（多分、禅定寺の寺にかかわる）、らしい箇所を通過。いよいよ急峻なガレ場を抜けて尾根へ出た。（標高390mか？）

尾根を南へ100m足らずで山頂へ到着。「おー素晴らしい！」「うわぁーいい眺め！」と思わず叫ぶ声。小郡を眼下に、西へ嘉川から阿知須のドーム、遠くに連なる海岸線の向こうに白く輝く瀬戸内の海まで展望できた。

誰が作ったのか、木にまたげられたブランコに乗ってしばしはしゃいだ後、全員で記念撮影。やがて下山となった次第である。

麓で食べた昼食の
おいしかったこと。

次号につづく。



お母さんと一緒に参加してくれた子どもさんの姿が印象的でした。きつと、お父さんやお母さんが子どもに話して誘ってくださったのでしよう。このようにして、嘉川の地域づくり活動ができるのだと、本当に心強く思ったことでした。

おかげさまで、もうすっかり定着したと思われるこの活動、改善すべきことをよく考えながら、嘉川地区の住民活動の一つのよりどころとして、これからも大切にしていきたいと思っています。

懐かしい映像がCDに

解体された旧館から、昭和53年に嘉川地区の一年間の風物を記録した8ミリフィルムが見つかり、CDに編集し直しました。既に3回試写会を実施しましたが、会場では懐かしい映像に見入っておられました。ご覧になりたい方はセンターにご連絡ください。

ご協力ありがとうございました

家に保存されている嘉川地区の古い写真などを提供いただき、少しずつ記録を始めました。また一部は嘉川文化祭で展示しました。この活動は始まったばかりです。古写真や古記録等がある場合や情報をお持ちの方は、これからもぜひ嘉川地区交流センターにご連絡いただきますようお願いいたします。

編集後記

嘉川まちづくり協議会では、五つの分野の課題を掲げ、事業や予算を協議し、具体的な進め方や活動の様子を皆様にお知らせしています。この度、発刊2号には、表紙の上位に嘉川の里を象徴するような「賀宝」を入れてみました。平安時代に嘉川のを、「賀宝（かがほ）」という名で呼ばれていたからです。また、この時代、太宰府までの山陽道の宿場として「賀宝」の名も残っています。

歴史的に由緒あるこの地名「賀宝」を、嘉川の里のシンボルとして、取り上げてみました。